

# 漁況予報 いわし

## 第108号

2001年11～12月漁期  
(2001年11月2日発行)

### ＝ 概況 ＝

#### まいわし

9月のマイワシ漁況は、中型まき網による水揚げはなく、主要定置網においては前漁期に引き続き当歳魚主体の漁模様となり、水揚量は前年同期並みの約30トンでした。10月に入っても、相変わらず中型まき網による水揚げはなく、主要定置網では前年同期を若干下回るペースで水揚げが続いています。一方、9月期の三陸～房総海域における北部太平洋まき網による水揚げは、1歳魚主体の約6,500トンで前8月期(約34,000トン)よりは大幅に低下したものの、前年同期比では約12倍の水揚げがありました。

現在三陸沖で漁獲されている1歳魚が南下群として今漁期以降来遊してもらいたいところですが、黒潮は依然としてC型基調で推移しており、東京湾・相模湾にマイワシが来遊しにくい状況が続いていますので、あまり期待できないでしょう。

このペースでいくと、本県における今年のマイワシ漁獲量が今年の半分程度になるのは必至と見られます。

#### かたくちいわし

9月のかたくちいわし漁況は、まき網で約20トンの漁獲があり餌イワシとして活かしています。一方、主要定置網では昨年同期の2倍強である約4トンの水揚げがありました。最近は、春先に比べて8月以降の漁獲量が伸びないため、カツオ釣漁船や遊漁船が餌イワシの確保に四苦八苦しています。10月に入っても、漁の好転は見られず、主要定置網も西湘地区を中心に水揚げが殆どない状況になっています。

#### しらす

8月中旬以降、不漁が続いていた相模湾のシラス漁ですが、9月に入っても上旬に台風15号が直撃したこともあり、なかなか漁場が安定せず全域で殆ど漁がない状況になりました。ようやく20日過ぎから全域で漁が再開され、100～500kg/統/日の漁獲水準となりましたが、長続きせず10月に入ると再び散発的な漁模様となっています。結局、9月の漁獲量は過去10年で4番目、過去5年で最も低い水準となりました。このため、単価は上昇しており、9月下旬から10月上旬にかけて1,500円/kg(平塚魚市場)と高値になっています。

今後は、単発的に獲れる日が現れるのを繰り返しながら、徐々に終漁へ向かっていくことでしょう。

### ＝ 予報 ＝

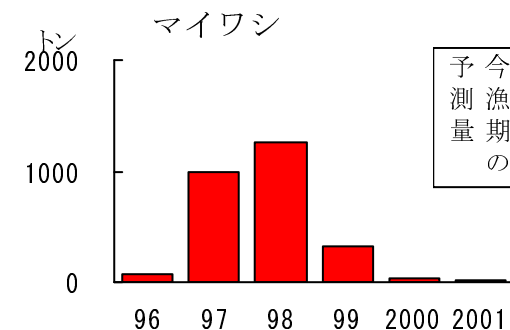
#### まいわし

前漁期に引き続き、大羽および中羽(2000年級群)の期待が持てないため、今漁期も当歳魚(ヒラゴ)が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、約10トンと予測されます

\*縦軸：主要定置網+まき網

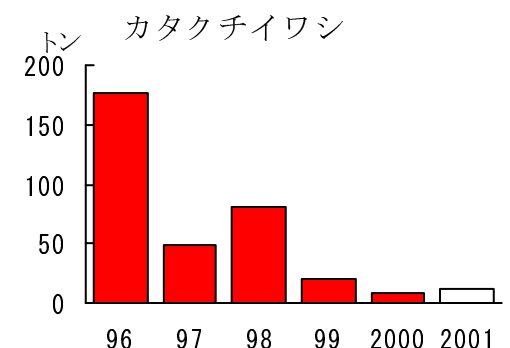
過去5年の11・12月漁期の漁獲量と今漁期の予測量



#### かたくちいわし

今漁期は、未成魚及び小型成魚が漁獲の主体となります。

今漁期の漁獲量は、約10トンと予測されます。



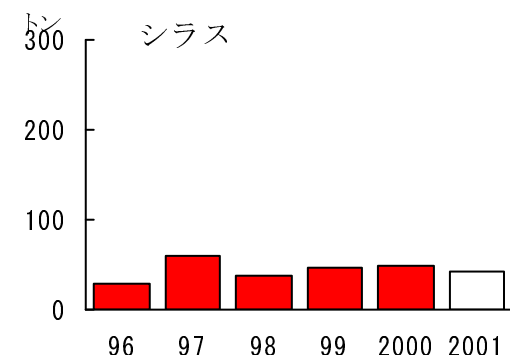
#### しらす

今漁期は、9～10月生まれのかたくちシラスが漁獲の主体となります。

今漁期は、元々漁獲量の少ない時期ですが、今年も平年並みの漁獲量に落ち着くと思われます。

漁期中には、マシラスやウルメシラスも若干混獲されるでしょう。

今漁期の漁獲量は、約45トンと予測されます。



神奈川県水産総合研究所 資源環境部  
三浦市三崎町城ヶ島 (0468-82-2313)